

英語科学習指導案

指導者 丸橋 友之

1. 日時 平成17年11月11日(金) 2校時
2. 学級 1年1組 男子19名 女子17名 合計36名 南校舎4階
3. 主題 New Horizon English Course Book 1 Unit 7 アメリカの学校から
4. 主題について

本単元は「異文化理解」、「情報教育」を意識している。Unit6のオーストラリアから、アメリカ合衆国へと話題を広げていく。アメリカの中学校のホームページにアクセスし、情報を得るのが中心となる単元である。インターネットを通じて、日本にいなから世界中の情報を簡単に収集できることは、単なる情報収集のみならず異文化理解につながるものである。本単元で「アメリカ合衆国」が具体的に扱われるのは初めてである。「外国文化＝アメリカ文化」という錯覚をするほど、日本には様々な形でアメリカの文化が入り込んできている。よって多くの日本人には気持ちの部分で「一番近い国」と言える。ところが日本人は、アメリカ人も自分たちと同じような生活スタイルであると思いこんでいる部分が少なくない。よって今後様々な国の文化や生活習慣の相違を学習し認めることは、「国際化」という視点から非常に大切なことである。本単元は、「時間と天候」に関する対話によって日本、シドニー(オーストラリア)、ニューヨーク(アメリカ合衆国)の地理的相違の理解に始まり、デミの実家の近くの中学校のホームページにアクセスし、デミの友人のベンによる学校の説明をマークとデミが読むという設定である。Part1で取り上げている「時差」の話題は、Unit 6同様、日本と他国の地理的な違いを確認できる。同じ国内でも州によっても時差があったり制度が異なる部分があることは生徒にとって驚きであろう。またPart 3とPart 4ではホームページに記載されてある情報から、アメリカの中学校と日本の中学校の違いに触れることができ、生徒にとって新しい発見になるであろう。よって本単元は、今後各国の政治・宗教・教育・文化などの違いに目を向けるきっかけとなる教材であると考えられる。

1年生に対するこれまで指導は「聞く・話す」ことが中心であった。生徒達もこれらの力を身につけるための活動に対して大変積極的である。特に音読に重点を置いて指導しており、様々な表現を浸透させている段階である。しかしながら「読む・書く」ことに関しては課題が多い。特に、先日行われた学習定着度調査において、「読む」ことについては正答率が他の技能と比較しても非常に低いという結果になった。よってPart3とPart4の読み取りについては高いハードルとなることが予想される。題材がインターネットという特殊な状況であるが、技術科でインターネット検索の仕方やメールの使いなどが学習済みで、様々なウェブページにアクセスする経験を全員が持っており、題材に対する違和感はない。異文化理解においては、他国の教育事情の学習をしていないため、日本の教育制度が世界の教育制度と同じであると考えている。さらに教育制度が同じならばものの考え方も自分たちと同じであろうと予測している。

以上のような教材と生徒の実態をふまえ、次の三つの方法で本単元を扱うこととする。一つめは、言語活動を授業の中心に据えることによって新出言語材料を浸透させることである。言語活動では、基本表現のみを使用するだけでなく、対話の一部として文脈の中で基本表現を使用し、実際のやりとりに近い状態をつくって活動をさせたい。教科書の本文はあくまでも基本形ととらえ、実際の言語使用状況に近い状況を提供し、より発展させた活動を展開して既習事項も駆使しながら学習を進める。二つめは「読む」活動の充実である。これまでは英文の意味にを大まかに把握したあとで音読することを重視してきたが、それを継続しつつ、英文を詳しく読んで情報を獲得する力を伸ばしたい。Part 3・4が「読み取り」の力を必要とする教材であるので、ここでは概要把握のみならず、英文の構造に目を向けた指導を展開し、語のつながりを意識して読み取らせ、「英文から情報を獲得できた」という達成感を持たせて今後の学習につなげたい。三つ目は異文化理解を深めることである。単元の内容は「他国の教育事情」の一片に触れており、異文化理解に具体的に迫ることのできる題材である。以上、言語材料の定着を図ることを基本に、「世界の中の日本」で生活しているということを十分に理解させたい。

5. 指導と評価の計画

別紙「指導と評価の計画」による。

6. 本時の達成目標

- (1) 名前しか知らない人物に関して、本時の基本表現を使って、質問できる。
- (2) 伝達すべき事項を、グループで協力して文章化し、所属グループに戻って伝達できる。

7. 本時の指導構想

見知らぬ人物の映像を突然見せられたときに、多くの人は「誰?」と思い、「誰?」と発話する。その疑問が本時最大の必然性である。導入部分では人物写真を提示し、その瞬間的な疑問を即座に取り上げ、本時の学習課題とす。表現方法については文法説明は極力避け、定型文としてパタンブラクティスを繰り返し、浸透させたい。教科書では疑問文1文に対して1文で応答しているが、一問一答形式での対話は稀であり、「誰?」と質問された場合、自分の知っている情報をできるだけ多く伝えようとするもののほうが日常よく見られる光景である。よって本時の言語活動では、質問に対して4つの情報を準備し、Whoを使った疑問文に対して具体的に情報提供させたい。

本時の言語活動では「写真の人物が名前しかわからない」という状況をつくり出す。そこでその人物を詳しく知りたいがための疑問文Who is ~?が発話される。またその質問に答えるために、一人一人が自分の責任で情報を集め、答えるための準備をする。この準備となる取り組みが、このあとの情報伝達の場面でのよりどころとなる。さらに伝達する情報はすべて既習事項であり、英文の語順、動詞の形、冠詞などに留意して文章化する必要がある。これまで学習してきた文法事項を「ことば」として大事にして取り組ませたい。

8. 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方 学習の仕方
D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導入	学習課題設定	5	<p>1.復習と Warming up を兼ねて、「Dangan Input」をする。</p> <p>2.P.C を見て、疑問点を出し合い、本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学習課題 見知らぬ人の情報を引きだそう </div>		<p>1. B Speed Reading と Speaking Test の2つの活動を短時間で終わらせるように指示する。</p> <p>2. E P.C.を見てとっさに思い浮かんだ疑問を言わせ、学習課題につなげる。</p>	<p>1.Speed Reading ...個 Speaking Check ...ペア Dangan Input シート</p> <p>2.個, P.C., 学習シート 紙板書</p>
		40	<p>3.基本文の意味と用法を確認しパタン プラクティスをする。</p> <p>4.言語活動をする (1)4人グループ(Inferior Group)のそれぞれが役割を持ち, Superior Group にわかれ, 獲得すべき情報を獲得し, 英語で説明できるように練習する。</p> <p>(2)それぞれが元のグループに戻り, 情報交換をし, 互いの情報を共有する。</p> <p>(3)それぞれの P.C.についての対話を発表し, 獲得した内容が正しいかどうか全体で確認する。</p>	<p>4.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 本時の基本文を使って相手から情報を引き出し, 正確に聞き取ることができたか。 </div> <p>発表</p> <p>G1:本時の基本文を正確に使い, 相手の情報を引きだして正確に聞き取ることができる。</p> <p>G2:本時の基本文を用いて相手の情報を引き出したり, いくつかの情報を獲得できる。</p> <p>G3:基本文を正しいタイミングで使い, キーワードから情報を推測させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 情報を整理し, 相手に伝えるように話すことができたか。 </div> <p>発表</p> <p>G1: 5つの情報を伝えきることができる。</p> <p>G2:できるだけ多くの情報を伝えることができる。</p> <p>G3:内容語を用いて情報を伝えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> グループ活動に積極的に取り組むことができたか </div> <p>観察</p> <p>G1:日本語を使わずに活動に参加している。</p> <p>G2:情報伝達場面で日本語を使わずに活動しようとする。</p> <p>G3:キーワードやジェスチャーで情報伝達させる。</p>	<p>3. Who is ~? の文が多く の情報を引き出すきっかけになる疑問文であることを理解させる。</p> <p>4 A 本時の基本文を状況だけで言えるようにさせる。 A 伝達すべき情報を, 項目だけを見て伝えられるようにする。 C 伝えるべき全情報を英語で言えるようにグループで繰り返し練習させる。</p>	<p>3.一斉 ペア</p> <p>学習シート, P.C.</p> <p>4. 4人1組(Inferior Group) 9人1組(Superior Group) 4人1組(Inferior Group), 学習シート</p>
展開	学習課題設定	5	<p>5. 本文の内容に関する質問に答える。 (1)新出単語の意味と発音を確認する。 (2)対話の状況に関する説明を聞く。 (3)CDを聞いて学習シートの質問に答える。 (4)教科書を読んで, 再度質問に答える。 (5)各文の意味を理解し, Read & Look up ができるまで音読練習をする。</p>		<p>5. A 本文中で使用されている基本文から, 人間関係を聞き取らせる(読み取らせる)活動を優先する。</p>	<p>5.個・フラッシュカード ・学習シート・CD</p>
		5	<p>6.書く活動を行い, 本時の学習を振り返る。</p>		<p>6.評価問題に取り組みせる。</p>	<p>6.自己評価シート</p>
終末						

1 年 英語		単元(題材)名 Unit 7 アメリカの学校から			総時間 7 時間扱い		
学習指導要領の指導事項 A(聞くこと) イ 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。 B(話すこと) イ 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。 C(読むこと) イ 書かれた内容をもとにしながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。							
単元の目標		主な学習活動	評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化の知識・理解
時刻と天候を尋ねたり、答えたりすることができる。 「～とは誰ですか。」と話題に上っている人の職業や話し手との関係を尋ねることができる。 文化が異なる国の学校生活について質問したり、答えたりすることができる。		表を見て様々な国の時間や天気について対話をする。	B = 「おおむね満足できると判断される状況」	英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。	まとまった英文を聞いて必要な内容を聞き取る。	基本文を用いて発表している。	* 場面や状況にふさわしい表現をする。 * 時差やアメリカの学校事情について理解している。
		写真の人物について対話をし、情報を集める。	A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	日本語を一切使わずに英語でコミュニケーションを図ろうとしている。	まとまった英文を聞いて細かい部分について言及する。	既習事項を駆使して発表している。	* 場面や状況にふさわしい表現を使いこなすことができる。 *
		英文を読んでアメリカの中学校についての情報を獲得する。	C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	必要な英文を必ず英文で言わせる。	キーワードに注目して必要な内容を聞き取らせる。	基本文をゆっくりと正確に発音させる。	* 教科書を元にして必要な表現を想起させる。 * 世界には時差があることや国によって教育事情が違うことを理解させる。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化の知識・理解
1	2	時刻と天候を尋ねたり、答えたりすることができる。	表を見て様々な国の時間や天気について対話をする。	様々な国の時間や天気の情報交換に積極的に参加している。	天気や時刻の英語を聞いて内容を理解している。	表を見て時刻や天気を正確に話したり書いている。	場面や状況に応じた時刻・天気の情報交換を指摘している。
2	2 (本時1/2)	「～とは誰ですか。」と話題に上っている人の職業や話し手との関係を尋ねることができる。	写真の人物について対話をし、情報を集める。	道の人物の情報交換を、英語を使って積極的にしている。	人物の情報を正確に聞き取っている。	基本文や既習事項を用いて見知らぬ人物に関する情報交換をしている。	人の職業や話し相手との関係を質問したり答えている。
3	3	文化が異なる国の学校生活について質問したり、答えたりすることができる。	英文を読んでアメリカの中学校についての情報を獲得する。	英文の読解に積極的に取り組んでいる。	アメリカの中学校の様子を本文の英語を読んで理解している。		日本とアメリカの教育環境の違いを理解し、まとめている。